リモート・マルチワーク時代に見る

これからの
働き方 暮らし方
インサイト

2021年4月 調査レポート

本レポート内容の著作権等の権利は、オージス総研に属します。書面による事前の許可なく、変更・送信・複製・他者への配布はできません。許諾を受けずに本レポートを公表、又は再配布することは禁止されています。

オージス総研

covid-19流行をきっかけに多くの企業でリモートワークが定着し、今後、多様な働き方がより発展していくことが予想されます。

オージス総研では、すでに大企業においても副業・兼業が進み、マルチワーク化が加速していることに着目し、リモートワークであることを前提に、より柔軟な働き方＝マルチワークを実践している生活者から、これまでの時代の働き方のフレームが今後どのように変わっていくのか、今、注目すべき3つのインサイトを導き出しました。

産業革命以後スタンダードになった組織の在り方、働き方は、今まさに大きく変わろうとしています。
このインサイトが、各企業さまの組織改革や業務改革を検討していく上でのきっかけやヒントになれば幸いです。

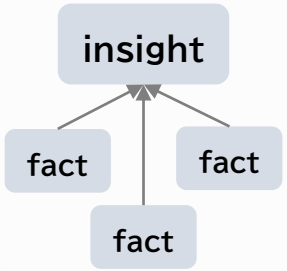
調査データ

調査対象者	大企業などで、リモートワーク前提に、働き方や働く場所が大きく変わった、副業やボランティアなどのマルチワークを実践している会社員3名
調査期間	2021年2月～3月
調査内容	働き方・暮らし方に関するオンラインインタビュー、日記調査、訪問調査 ※上記に加え、2回目の緊急事態宣言下でリモートワークをメインに行う会社員から収集した事実データ(100データ)も参照

インサイトについて

弊社では、インサイトを
下記のとおり定義しています。

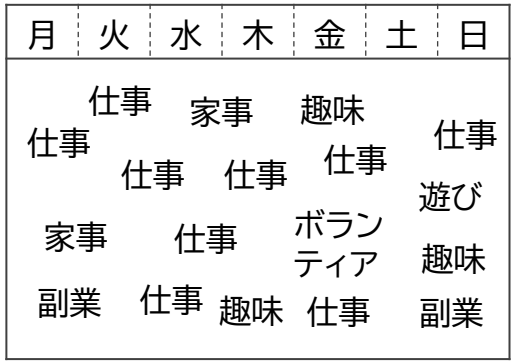
**「複数の事実を総合的に俯瞰し、
統合することで導き出される本質的な仮説」**



オージス総研 Copyright © OGIS-RI Co.,Ltd. All rights reserved.

Insight no.1： 働き方と暮らし方のインサイト

✓ リモートワークの定着　✓ DX、IT・AI活用の推進
✓ マルチワークの普及　✓ 創造社会へのシフト



ONとOFFが分かれた働き方・暮らし方
月-金、9時-17時勤務が基本概念

※フレックスも週休3日も8時間労働などもすべてこの考え方が前提

ONもOFFもない、勤務日も休日もない
仕事対余暇という発想がない暮らし

※ワーケーション（work+vacation）などは代表例

リモートワークが定着し、
今後、IT・AI化がさらに進むことで、
知識創造社会がさらに加速している。

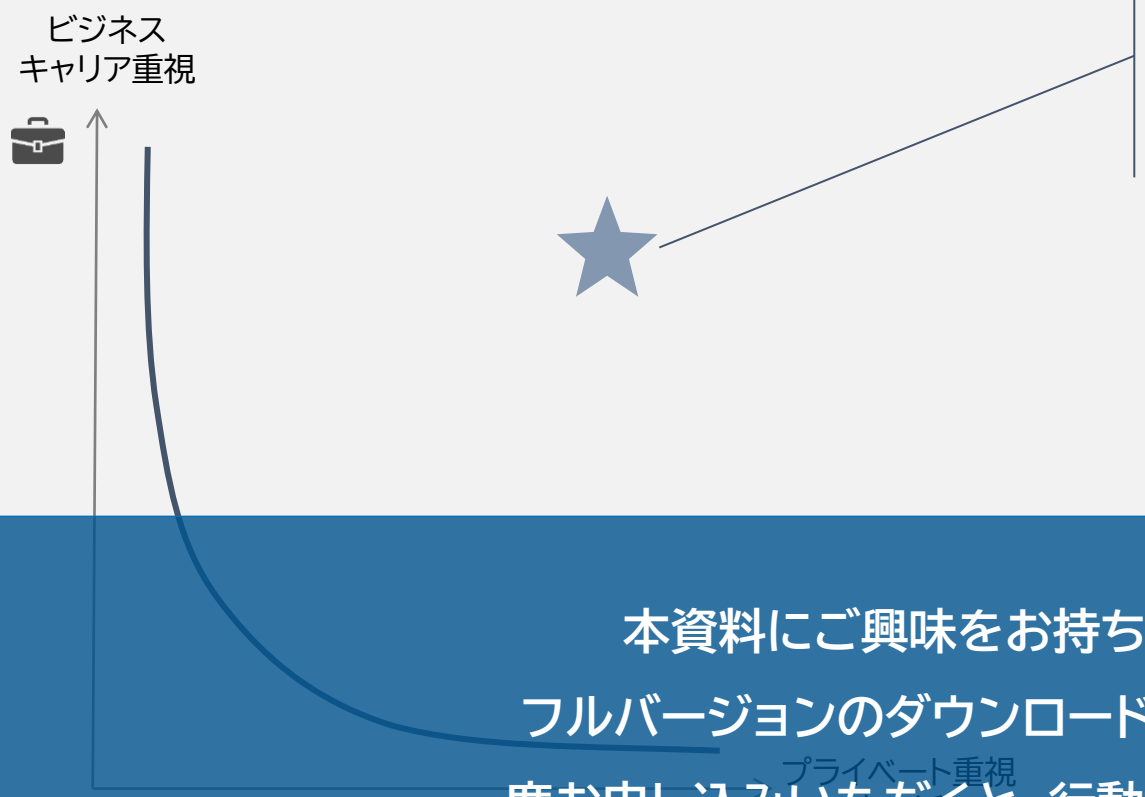
創造性の源泉となる人材の多様性を確保するためにも、
マルチワーク化は止まらない流れ。
そして、仕事＝1つの会社で働く、という考えも、
仕事⇔プライベートという二元論的発想も、薄れてきている。

月-金、9時-17時労働は
工場の一斉稼働のためのシステムで、
同じ場所、同じ時間で働くことがマストであった
近代産業革命（工場労働）時代の産物で、
長い歴史上で見れば直近100年間の常識に過ぎない。

新時代に向けて、「月金・9時17時」の仕事概念は
大企業会社員においてもリフレームされつつある。

オージス総研 Copyright © OGIS-RI Co.,Ltd. All rights reserved.

Insight no.1: 働き方と暮らし方のインサイト ― ビジネスキャリアと家庭生活のトレードオフからの脱却



以前は、トレード・オフと認識されがちであったが、
仕事⇔家庭という対立概念が急速に解消されていくことで、
両立するライフスタイルが定着していく

こうしたキャリア観のシフトにより、
一義的なビジネス価値（市場価値）は活動の源泉でなくなってくる。
そして、「好きを仕事に」がカッコいい時代は過ぎて、
「個人的都合＝好き」の気持ちを大事に、肩ひじ張らない社会貢献、
という感覚に。

このような価値観の世界では、「失敗⇔成功」の概念もなく、
競争、優劣といった垂直的な関係も崩れる。
ヒエラルキーはなく、フラットな関係で、
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]